

# ～麻疹・風しん患者の対応のお願い～

麻疹・風しんは感染力が大変強く、社会への影響も非常に大きな感染症です。

医療機関は麻疹・風しん患者と接触し感染する可能性が特に高い施設です。近年、医療機関職員の麻疹・風しん感染や、医療機関を介した感染拡大が発生しています。

医療機関では、①麻疹・風しんの患者が受診すること、②それらの患者からスタッフが感染し、さらに拡大させる恐れがあること、③乳幼児や児童、妊婦、体力の弱い方などの、麻疹・風しんに罹患すると重症化しやすい方と接する機会も多いこと等の事情から、麻疹・風しん患者が利用する場合の対応について、配慮をお願いします。

医療機関では感染を予防するため、「平常時の対応」と「患者が発生した場合の迅速な対応」が大変重要です。医療関係者は自らを麻疹・風しん感染から守ると同時に、医療機関での感染拡大を防止するために、徹底した対策が求められています。

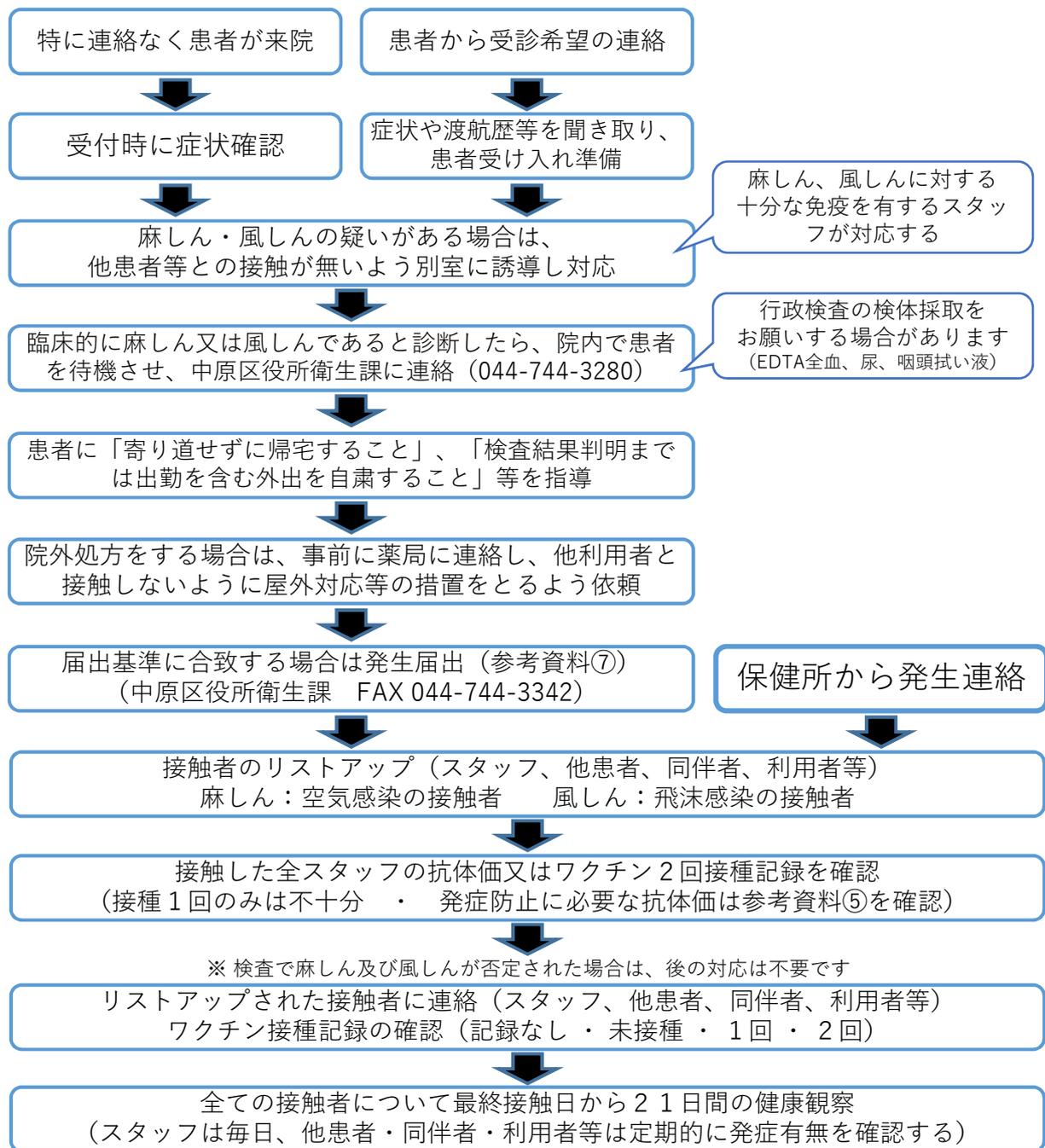
また、麻疹・風しん患者が他者と接触し感染を拡大させてしまうことの無いよう、院外処方時の薬局利用への事前連絡の注意や、感染可能期間中の外出自粛等、医療機関からも十分に指導していただきますよう、何卒御協力をお願いいたします。

この文書は以下の資料をもとに作成しています。いずれの資料もインターネットから取得できますので、それぞれの資料を必ず御確認いただき、対策にお役立てください。

- ① 国立感染症研究所 医療機関での麻疹対応ガイドライン
- ② 国立感染症研究所 麻疹Q&A（医療機関での麻疹の対応について）  
（①、② 国立感染症研究所 麻疹のページから御確認ください）
- ③ 国立感染症研究所 医療機関における風しん対策ガイドライン
- ④ 国立感染症研究所 風しんQ&A  
（③、④ 国立感染症研究所 風疹のページから御確認ください）
- ⑤ 日本環境感染学会 医療関係者のためのワクチンガイドライン第2版  
（⑤ 日本環境感染学会 学会誌・発行物のページから御確認ください）
- ⑥ 厚生労働省 特定感染症予防指針
- ⑦ 厚生労働省 感染症法に基づく医師の届出のお願い  
（⑥、⑦ 厚生労働省 感染症情報のページから御確認ください）

なお風しんは、麻疹とは異なり飛沫感染のみで空気感染はありませんが、麻疹と同様に感染力が非常に強く、周囲や社会への影響も大きいことから、麻疹に準じた対応をお願いします。

# ～麻しん・風しん対応の主な流れ～



## 必要な事前準備

- ◆ 全てのスタッフについてMRワクチン2回接種の徹底とその記録の整理保管(専門職、事務職、パート、アルバイト、ボランティア、実習生等を含む)
- ◆ 麻しん・風しん及びその疑い患者、発疹等のある患者は受付時に申し出る旨の掲示と、受付時症状確認の徹底
- ◆ 麻しん、風しん対応手順の整備と全スタッフへの周知